

募金趣意書

盛夏の候 同窓の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。

さて、皆様ご案内のとおり、我が母校は本年（平成二十五年）創立四十周年の大きな節目を迎えます。昭和四十九年、旧理科センター（現県立金沢二水高校敷地内）を仮校舎として五クラス二百二十五名の学校として創立し、翌昭和五十年に金沢市藤江地区に新校舎を得て二学年十クラスの規模で現在の母校の礎となりました。その後、普通科に英語コースを新設し、国際理解教育の先進校となり、平成八年には、県立全日制高校で初めての単位制高校に移行、来年は、学期制に移行の予定です。更に、県庁舎の移転が決まり、金沢市藤江北の母校敷地が県庁に転用されることとなったため、金沢市畝田東地区に最新の設備を整えた新校舎に移転することとなりました。

このように、二度の校舎移転二度の学級システムの変遷を経る間に、母校は一人を超え有為の人材を世に送り出してきました。そして、四十周年の歴史と伝統を継承し、さらに二十一世紀に相応しい学校として発展していきます。

母校が歴史的発展を進めようとしている時、母校の前途を祝い、その一層の飛躍を期すため、「創立四十周年記念事業委員会」を結成し、左記の通り記念事業を行う運びとなりました。

つきましては、記念事業を実施するにあたり熱情溢るる同窓会員の方々の絶大なる賛助をいただき、立派にこの事業が、有終の美を飾るよう念願しております。

ついでには、何かと出費でご多端の折、誠に恐縮でございますが、是非ご賛助賜りますよう切にお願い申し上げます。

末筆ではありますが、同窓会員の皆様の一層のご活躍をお祈り申し上げます。

記

一、記念事業

- 記念式典
- 記念講演会
- 記念祝賀会
- その他記念特別事業

一、募金目標額

金四千万円

一、募金額

一口 五千円としますが、幾口でも結構です。ご寄付いただいた同窓生の方には、西高校オリジナルキティちゃんタオルを進呈いたします。

一、納入方法

同封の振替用紙をご利用下さい。（全国の郵便局・ゆうちょ銀行でご利用できます。）また、本会へ直接ご送金下さっても結構です。

平成二十五年九月二十八日の祝賀会の受付でも納入できます。

一、納入時期

平成二十五年九月二十八日（土）までをお願いいたします。

一、お問い合わせ

〒九二〇一〇三四四 石川県金沢市畝田東三丁目二一六番地

石川県立金沢西高等学校内 同窓会事務局
電話（〇七六）二六八一四三二一

平成二十五年七月

石川県立金沢西高等学校同窓会

- | | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 会長 | 石動 博一 | 副会長 | 大畑 晃一 |
| 副会長 | 大友恵利子 | 副会長 | 宮本 晃 |
| 副会長 | 徳永 健一 | 副会長 | 安田 義一 |

学年幹事

奥野 裕美	上村 悟	吉田 康了	川筋 洋子	鍛冶 勉	森川 厚子	清水 千明	沼田 幸子
高田 均	山田 孝男	高木 康徳	加藤 晃	中川 和美	小倉 昭二	北川 美和	森井 邦子
東山 裕一	泉 智夫	鍛冶 弘美	村田 栄蔵	角村 佳幸	宮本 政広	前川佳代子	細川 稔
大田 繁	高多 兵悟	山下 友美	黒崎 充子	釜谷 雅孝	外山 典子	宮崎 法恵	安村 智行
松本 珠紀	栗野 功一	松本まゆみ	中嶋 大樹	加藤 典子	竹森 千恵	長原由果利	田中 茂
中盛 恵	寺 俊一	窪田 美香	東 紀子	岡田 俊英	竹村 元成	酒本 裕貴	押切 雅光
金谷 啓紀	表 美紗緒	山崎 美栄	津田 慎也	宗田 敏幸	玉作 好美	坂井 巖	中村 達哉
大赤見麻美	道村 唯	渡辺 昇	矢能伸之介	中川志津香	荒俣賢志朗	中村 有貴	前崎 隆一
関 麻奈未	林 恒吾	古田 茜	連 秀馬	脇澤 麻陽	宮丸 友輔	奥谷 美奈	澤田石 彩
山本 桜	林 寿彦						

（卒業期順）